岩手県一関市舞川方言における形容詞活用体系

齋　藤　孝　滋

1. はじめに

東北方言は，大きく北奥方言と南奥方言に区画される。岩手方言は，まずこの大区画により中北部方言地域（旧南部藩領）と南部方言地域（旧伊達藩領）に区画され，さらに，前者は北部方言地域，中北部方言地域，沿岸方言地域に区画される。(注1) 本稿で対象とする一関市舞川方言は，南部方言地域に位置する南奥方言北部の方言ということになる。

当該方言（及び近隣方言を含む）における形容詞活用体系について述べたものとしては，小松代（1976），本堂（1982），齋藤（1992e）齋藤（2001）がある。小松代（前掲著書）は，特に方言を限定せず南部方言地域全般を対象とし，本堂（前掲論文）は近隣の一関市山目方言を対象として，少数の代表語例について，ほぼ学校文法の枠組みに従った活用表を示す形で概説したものである。具体的例文は示されていない。齋藤（1992e）は，同年代の他のinformantの談話を中心として，本稿で用いる資料の一部も加えて，一般向けに概説したものである(注2)が，繁雑さを避けて，詳細な音韻レベルの現象は分析に反映させておらず(注3)また，具体的例文は示していない。齋藤（2001）は，同様に本稿で用いる資料の一部を用いて，活用表現ごとの方言間対照を中心に述べたものであるが，活用体系設定は行っていない。

2. 目的・方法

本研究の目的は，当該方言における形容詞の活用体系を明らかにすることにある。記述は音韻レベルで行う。(注4)

調査方法は，「当該地域出身の親しい友人（同性）とくつろいで話す場面」

を設定した上で，共通語の例文を示して対応する方言パターンを発話して頂き，さらに，それにより見出された接続形式を用いて，活用表現を発話して頂くというものである。

informantは，調査地生え抜きの故吉田耕吾(ヨシダ·コウゴ)氏(T7年生，男性，元舞川公民館館長）である。調査は，動詞・形容詞活用表現の研究の一環として，1984年7月～8月，1985年1月，8月，1992年8月に，筆者が舞川公民館におじゃまして実施したが，本稿で用いる形容詞活用の資料はその一部である。

3. 活用体系

当方言の形容詞は，不変化部（語幹）末の母音によって4種類に分けられる。

「岩手県一関市舞川方言形容詞活用体系表」（本稿末尾掲載）において，形容詞の分類と，活用，及び接続形式を示す。

4. 第1活用形

第1活用形は，基本形（φ接続：言い切り）の場合，体言，/no/（準体助詞「の」），/ba/（接続助詞「ば」）が接続する場合の活用形である。

4・1. 基本形の場合

koN'jano 'ozukisamaa 'uzugusuu

[ko N 'jano o^{d}z ü̈ k^{ɕ} i̥.sama· ü̈ ^{d}z ü̈ g ü̈ s ü̈ ·]

(今夜のお月様は，きれいだ〈美しい〉)

'osjosuu

[oʃ os ü̈ ·]

(恥ずかしい)

higee

[Φ ïg e̞ ·]

(低くい)

’ee

[ɪ ˑ]

(良い)

kuree

[k ɯ̥̈ ɾe̞ ˑ]

(黒い)

too’e

[to ˑ ɪ]

(遠い)

tagεε

[tag ε ˑ]

(高い)

samee

[sam e̞ ˑ]

(寒い)

4・2. 体言及び/no/が接続する場合

’uzugusuu hana mida

[ɯ̈ ᵈz ɯ̈ g ɯ̈ s ɯ̈ ˑ hana mïda]

(きれいな〈美しい〉花を見た)

’osjosuu togi

[oʃ os ɯ̈ ˑ to gˠï]

(恥ずかしいとき)

higee togi

[Φ ĩg ẹ · to gʲĩ]

(低くいとき)

'ee togi

[ɪ · to gʲĩ]

(良いとき)

kureeno

[k ɯ̃ ɾẹ · no]

(黒いの)

too' e dogo

[to · ɪ dogo]

(遠い所)

tagεεno

[tag ε·no]

(高いの)

sameetogi

[sam ẹ · to gʲĩ]

(寒いとき)

4・3. /~ba/が接続する場合

'uzugusuu~ba

[ɯ̈ ᵈz ɯ̈ g ɯ̈ s ɯ̈ · ᵐba]

(きれい〈美しい〉ならば)

'osjosuu~ba
[oʃ os ɯ̈ · ᵐba]
(恥ずかしければ)

higee~ba
[Φ ɪ̈g e̞ · ᵐba]
(低ければ)

'ee~ba
[ɪ · ᵐba]
(良ければ)

kuree~ba
[k ɯ̟̥̈ ɾ̥e̞ · ᵐba]
(黒ければ)

too'e~ba
[to · ɪ ᵐba]
(遠ければ)

tagεε~ba
[tag ε · ᵐba]
(高ければ)

samee~ba
[sam e̞ · ᵐba]
(寒ければ)

5. 第2活用形

第2活用形は，nεε（打ち消し助動詞「ない」），naru（動詞「なる」），suru（動詞「する」）等が接続する場合の活用形である。

5・1. /n εε/（打ち消し）が接続する場合

'osjosugu nεε
[oʃosɯ̈ ɡ ɯ̈nε・]
(恥ずかしくない)

higugu nεε
[Φ ïɡ ɯ̈ ɡ ɯ̈nε・]
(低くない)

'egunεε
[ɪ ɡ ɯ̈nε・]
(良くない)

kurogunεε
[k ɯ̈ ɾo ɡ ɯ̈nε・]
(黒くない)

toogu nεε
[to:ɡ ɯ̈nε・]
(遠くない)

tagagunεε
[taɡaɡ ɯ̈nε・]
(高くない)

なお，終止形の語幹末尾母音が/e/の語は，上に示した用例の他に，終止形と同じ語幹をとる場合がある。

higegu nεε
[Φ ɪg ẹ g ɯ̈ nε˙]
(低くない)

samegu nεε
[sam ẹ g ɯ̈ nε˙]
(寒くない)

kuregunεε
[k ɯ̈ ɾ̥ẹ g ɯ̈ nε˙]
(黒くない)

5・2. /naru/（なる），/suru/（する）等が接続する場合

'osjosugu naru
[oʃ os ɯ̈ g ɯ̈ naɾɯ̥̈]
(恥ずかしくなる)

higugu naru
[Φɪg ɯ̈ g ɯ̈ naɾɯ̥̈]
(低くなる)

'egunaru
[ɪ g ɯ̈ naɾɯ̥̈]
(良くなる)

kurogunaru

[k ɯ̥̈ ɾo g ɯ̈ naɾɯ̈]

(黒くなる)

toogu naru

[toːg ɯ̈ naɾɯ̈]

(遠くなる)

tagagunaru

[tagag ɯ̈ naɾɯ̈]

(高くなる)

kurogusuru

[k ɯ̥̈ ɾo g ɯ̈ s ɯ̈ ɾɯ̈]

(黒くする)

tagagusuru

[tagag ɯ̈ s ɯ̈ ɾɯ̈]

(高くする)

なお，終止形の語幹末尾母音が/e/の語は，上に示した用例の他に，終止形と同じ語幹をとる場合がある。

higegu naru

[Φ ɪg e̝ g ɯ̈ naɾɯ̈]

(低くなる)

samegu naru

[sam e̝ g ɯ̈ naɾɯ̈]

（寒くなる）

kuregunaru

[k ɯ̈ ɾe̞ g ɯ̈ naɾɯ̈]

（黒くなる）

6. 第3活用形

第3活用形は，/te/（接続助詞「て」が接続する場合である）。(注5)

'osjosukute

[oʃos ɯ̈ k ɯ̥̈ t e̞]

（恥ずかしくて）

higukute

[Φïg ɯ̈ k ɯ̥̈ t e̞]

（低くて）

'ekute

[ɪ k ɯ̥̈ t e̞]

（良くて）

kurokute

[k ɯ̥̈ ɾo k ɯ̥̈ t e̞]

（黒くて）

tookute

[toːk ɯ̥̈ t e̞]

（遠くて）

tagakute
[tagak ɯ̟̥̈ t ẹ]
(高くて)

kurokute
[k ɯ̟̥̈ ɾ̥o k ɯ̟̥̈ t ẹ]
(黒くて)

なお，終止形の語幹末尾母音が/e/の語は，上に示した用例の他に，終止形と同じ語幹をとる場合がある。

higekute
[Φ ɪ̈g ẹ k ɯ̟̥̈ t ẹ]
(低くて)

samekute
[sam ẹ k ɯ̟̥̈ t ẹ]
(寒くて)

kurekute
[k ɯ̟̈ ɾ̥ẹ k ɯ̟̥̈ t ẹ]
(黒くて)

7. 第4活用形

第4活用形は，/ta/（接続助詞「た」），/tara/（接続助詞「たら」） 等が接続する場合の活用形である。

’juu~beno ozukisamamo egaQta
[j ɯ̟̈ ːᵐb ẹ no oᵈz ɯ̟̈ kᶜ ɪ̥̈ samamo ɪ gatta]

(昨夜のお月様も よかった)

'osjosugaQta

[oʃ os ɯ̈ gatta]

(恥ずかしかった)

higugaQta

[Φ ïg ɯ̈ ga tta]

(低かった)

kurogaQta

[k ɯ̈ ɾo ga tta]

(黒かった)

toogaQta

[to:gatta]

(遠かった)

なお，終止形の語幹末尾母音が/e/及び/ɛ/の語は，上に示した用例の他に，終止形と同じ語幹をとる場合がある。

tagɛg aQtara

[tagɛgattara]

(高かったら)

higegaQta

[Φ ïg ɯ̈ ga tta]

(低かった)

kuregaQta

[k ɯ̈ ɾo ga tta]

（黒かった）

samegaQta

[sam ẹ ga tta]

（寒かった）

8. 第5活用形

第5活用形は，/bee/（推量助詞「べー」）〈だろう〉）が接続する場合にみられる活用形である。

'egaNbee

[ɪ gamb ẹ ･]

（いいだろう）

'osjosugaNbee

[oʃ os ɯ̈ ga mb ẹ ･]

（恥ずかしいだろう）

higugaNbee

[Φ ïg ɯ̈ ga mb ẹ ･]

（低いだろう）

kurogaNbee

[k ɯ̈ ɾo ga mb ẹ ･]

（黒いだろう）

toogaNbee

[to:gamb ẹ ･]

（遠いだろう）

なお，終止形の語幹末尾母音が/e/の語は，上に示した用例の他に，終止形と同じ語幹をとる場合がある。

tagεg aNbee
[tagεgamb ẹ ・]
(高ければ)

higegaNbee
[Φ ïg ẹ gamb ẹ ・]
(低いだろう)
kuregaNbee
[k ɯ̤̈ ɾ̥ẹ gamb ẹ ・]
(黒いだろう)
samegaNbee
[sam ẹ gamb ẹ ・]
(寒いだろう)

9. 形容詞の活用体系性と音規則

9・1. 語幹統一の力と母音無声化規則

当該方言における「狭V」の無声化は，一般に，音構造が，共通語の音構造1に対応する場合生じ，音構造2に対応する場合生じない（Cは子音，Vは母音を表す）という規則性を持つ。

音構造1「無声C+狭V+無声C+（半）広V」例：［Φ i̥ to］/hito/（人），［Φ i̥ kaɾï ］/hikari/（光）

音構造2「無声C+狭V+無声C+狭V」例：［kᶠïg ɯ̈ ］/kigu/（聞く・菊），［ sɯ̈ sɯ̈ ］/susu/（煤）

「低い」は，語幹/higu/［Φïg ɯ̈ ］をとる場合，第2・第3活用形における第1拍～第2拍が音構造2となり，第1拍の/i/に無声化は生じない。そして母音無声化が生じなかった故に，第2拍の/k/に語中子音有声化現象が生じ/g/となっ

たと推定される。

一方，語幹/hige/［Φig e̥］の場合は，第1・第2・第3活用形における第1拍〜第2拍が音構造1となり，母音無声化規則からすると，第1拍の/i/が無声化することが期待される。しかし，実際は，/hige/のように無声化せず，第2拍の/k/に語中子音有声化現象が生じ/g/となっている。これは，語幹を統一しようとする力が，母音無声化規則より強く働いたためと考えられるのである。

9・2. 活用語尾の経済的統一の力と音規則

すべての形容詞において，第2活用形の語尾は/gu/，第3活用形は/ku/である。

活用語尾の母音/u/は，第2活用形の場合，直後の子音が，有声子音（/nεε/「ない」・/naru/「なる」）であるか，無声子音でも音構造2（/suru/「する」）であるため，無声化は生じない。そして，母音無声化が生じなかった故に，活用語尾の/k/に語中子音有声化現象が生じ/g/となったと推定される。

一方，第3活用形の場合は，/te/「て」が接続し，活用語尾の母音/u/は，音構造1の「<u>狭V</u>」に該当することになり，無声化することが期待される。そして，実際に無声化しているのである。論理的に，活用語尾の経済性の視点に立てば，/u/が無声化せずに，活用語尾の/k/に語中子音有声化現象が生じ/g/となれば，第3活用形は第2活用形に合流し経済的である。しかし，活用語尾の経済的統一の力は，その存在自体が問われるところではあるが，仮にあったとしても，語幹における場合とは異なり，無声化規則の力には及ばないことが以上よりうかがえるのである。

10. おわりに

本稿では，当該方言の形容詞について，活用体系を明らかにし，音現象（母音無声化現象，語中子音有声化現象）との関わりについて論じたが，今後はこの活用体系から見出せるdriftの方向性，他方言との比較，社会言語学的考察を経て，活用体系の過去から現在，そして将来の方向性を推定する作業が残っている。その作業に耐えうると考えられる筆者自身のフィールド・ワークによる

資料は，既に持ち合わせているが，論文として徐々に公開し，一連の作業を進めてゆきたい。

文献

上野善道他，1989「音韻総覧」『日本方言大辞典』小学館

加藤正信・村上雅孝・神戸和昭・齋藤孝滋・武田拓・半沢康，1991，「南部・伊達藩境地帯における方言分布の報告と考察」『日本文化研究所研究報告』別巻28号

小松代融一，1976『岩手方言の音韻と語法』岩手方言研究会

齋藤孝滋，1987，「岩手方言における子音の語中有声化現象の音韻論的解釈について」『語文論叢』15

同　1990，「岩手方言における語中子音有声化現象−音環境・語彙的事情・世代の観点から−」『国語学研究』30

同　1991，「岩手方言における語中子音鼻音化現象−音環境・語彙的事情・世代の観点から−」『語文論叢』19

同　1992a，「岩手方言における語中子音有声化現象・鼻音化現象−言語内的・外的要因の観点から−」『国語学』168

同　1992b，「第2章 言語・方言 第1節 気仙地方（特に陸前高田）方言の特色」（陸前高田市史編集委員会編『陸前高田市史 第6巻 民俗編 下巻』第一法規出版

同　1992c，「母音無声化の「広さ」と「強さ」−岩手方言を中心にして−」『国語学研究』31

同　1992d，「岩手県一関市舞川方言の音韻」『日本文化研究所研究報告』別巻29

同　1992e，「岩手方言」『国文学解釈と鑑賞』734至文堂

齋藤孝滋編 1999『地域言語調査研究法』おうふう

平山輝男・齋藤孝滋編著 2001『岩手県の方言』（明治書院）

本堂寛，1982，「8 岩手方言」「講座方言学4北海道・東北地方の方言」国書刊行会

【注】

1. 本堂（1982）による。
2. 若干の個人差がみとめられるが，その点については，別の機会に他方言と比較分析を行なう際，あわせて詳細に論ずることとする。
3. 本稿における第3活用形（6参照）の設定がそれにあたる。
4. 当該方言の音韻分析は齋藤（1992d）で行った。
5. 当該方言において/t/，/d/，/~d/が認定されることは，既に齋藤（1987，1990，1991，1992a，1992d）等で，また母音無声化規則については，齋藤（1992c）で述べた。

［付記］本研究は，日本学術振興会平成12〜13年度科学研究補助金奨励研究（A）「全国方言における主要音現象規則の計量的，構造的・社会的・地理言語学的研究」（課題番号12710229）による成果の一部である。

岩手県一関市舞川方言形容詞活用体系表

種類		末尾	語例	語幹＼活用語尾	1	2	3	4	5	所属語例
1	(1)	u	恥ずかしい	'osjosu	u	gu	ku	gaQ	gaN	su z̃ usuu(涼しい)
2	(2a)	e1	良い	'e	e	gu	ku	gaQ	gaN	
	(2b)	e2	低い	hige	e	gu	ku	gaQ	gaN	samee(寒い)
				higu	−	gu	ku	gaQ	gaN	
	(2c)	e3	黒い	kure	e	gu	ku	gaQ	gaN	広い(広い)
				kuro	−	gu	ku	gaQ	gaN	
3	(3)	o	遠い	too	'e	gu	ku	gaQ	gaN	ko'e(濃い)
4	(4)	ε	高い	tagε	ε	−	−	gaQ	gaN	'asεε(浅い)
				taga	−	gu	ku	−	−	
主な接続形式					φ(言い切り) 体言 no(の) ba(ば)	nεε(ない) naru(なる) suru(する)	te(て)	ta(た) tara(たら)	bee(べー)	

(注)「−」は、「あきま」を表す